



Title	ピリミジン塩基をもつシクロヌクレオシド誘導体の構造化学的研究
Author(s)	山縣, ゆり子
Citation	大阪大学, 1980, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/32778
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed 大阪大学の博士論文について

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏名・(本籍)	山 縣 ゆり子
学位の種類	薬 学 博 士
学位記番号	第 5090 号
学位授与の日付	昭和 55 年 9 月 30 日
学位授与の要件	薬学研究科 薬品化学専攻 学位規則第 5 条第 1 項該当
学位論文題目	ピリミジン塩基をもつシクロヌクレオシド誘導体の構造化学的研究
論文審査委員	(主査) 教授 富田 研一 (副査) 教授 池原 森男 教授 枚井雅一郎 教授 佐々木喜男

論文内容の要旨

緒論

核酸は遺伝情報の保存、伝達、および蛋白質合成に大きな役割を果たしている極めて重要な物質である。またその構成成分であるヌクレオシドもそれ自身で薬物としての作用を有するものもあり、その点でも重要な物質である。

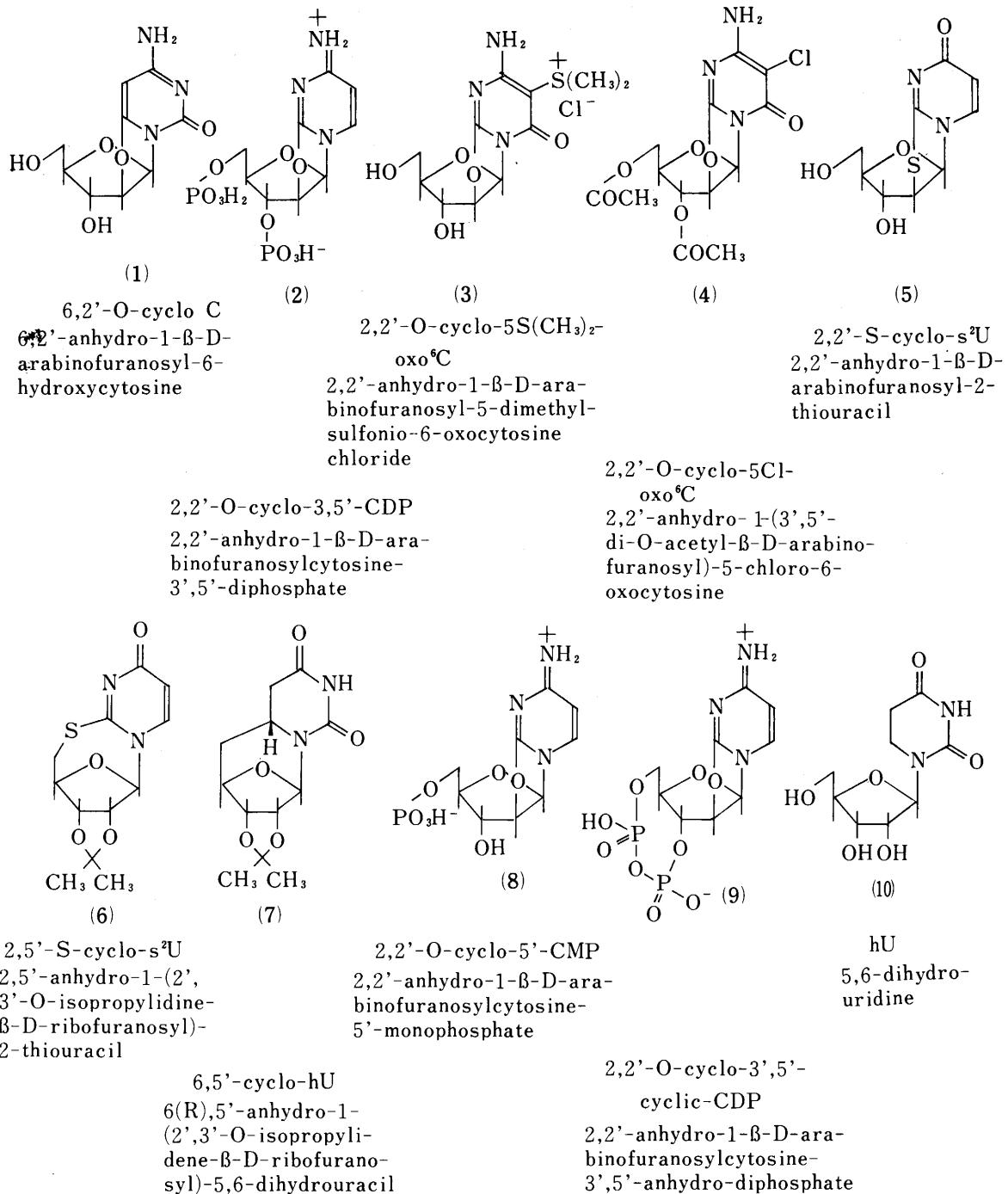
シクロヌクレオシドは、グリコシド結合以外にもう一つ共有結合をもっているために、核酸の三次構造を決める上で重要な糖と塩基の相対配置を規定するグリコシド結合まわりのねじれ角(χ_{CN})が固定されている。従ってシクロヌクレオシドは溶液中でも比較的限定されたコンホメーションをとることから、溶液中での物理化学的性質を研究するのによいモデル化合物であり、その構造化学的研究は興味ある課題である。

現在までに、ヌクレオシド誘導体によく使われている Vicinal の HH 間カップリング定数と二面角の関係式(修正 Karplus 式¹⁾)のシクロ体への適用の妥当性について調べられており、適用できない部位のあることが報告されている^{2,3)}。またモノヌクレオシドの円偏光二色性(CD)の Cotton 効果が塩基と糖との相互作用によって生じることから、シクロヌクレオシドをつかって、CD の Cotton 効果とグリコシド結合まわりのねじれ角(χ_{CN})との関係について多くの研究があり^{4,5,6)}。ピリミジンヌクレオシドについては、一般に、グリコシド結合まわりのねじれ角が anti 領域($\chi_{CN} = 0 \sim 60^\circ$)をとるときは、260 nm 付近に正の Cotton 効果をもつことが報告されている⁴⁾。

そこで演者は、種々のピリミジン塩基をもつシクロヌクレオシドの X 線解析を行ない、ピリミジンシクロヌクレオシドの詳細な分子構造上の特徴を明らかにするとともに、H¹-NMR を測定し、修正

Karplus式がシクロヌクレオシドに適用できない点について、X線解析の結果をつかった量子化学的計算から検討を加えた。さらにCDを測定し、 $\pi \rightarrow \pi^*$ 遷移によるCDのCotton効果についてもX線解析の結果を考慮して理論的に検討した。

なお本論において用いたピリミジン塩基をもつシクロヌクレオシド誘導体の名称及び構造式を略称とともに次に示す。



本 論

第1章 X線解析によるピリミジンシクロヌクレオシドの研究

[1] 実 験

試料は、6,2'-O-cyclo-C, 2,2'-O-cyclo-5S(CH₃)₂-oxo⁶C及び2,2'-O-cyclo-5Cl-oxo⁶Cについては、興人株式会社金井貞博士によって合成されたものを^{7,8)}また2,2'-S-cyclo-s²U, 2,5'-S-cyclo-s²U及び6,5'-cyclo-hUについては北海道大学薬学部上田亨教授によって合成された⁶⁾ものを用いた。2,2'-O-cyclo-3,5'-CDPは金井らの方法⁴⁾により新たに合成した。

それぞれの結晶学的データーを表1-6に示す。

表1 6,2'-O-cyclo-C

C ₉ H ₁₁ N ₃ O ₅	FW 241.11
Monoclinic	Space group <i>P2₁</i>
<i>a</i> = 10.491(10) Å	<i>Z</i> = 2
<i>b</i> = 7.255(7)	<i>F</i> (000) = 252
<i>c</i> = 6.858(14)	<i>V</i> = 507.45 Å ³
β = 103.55(10) ^o	<i>D_m</i> = 1.571 Mg m ⁻³
λ (Cu <i>K</i> α) = 1.5418 Å	<i>D_x</i> = 1.578
μ = 1.13 mm ⁻¹	

表2 2,2'-O-cyclo-3',2'-CDP

C ₉ H ₁₃ N ₃ O ₁₀ P ₂ .H ₂ O	FM 403.18
Monoclinic	Space group <i>P2₁</i>
<i>a</i> = 10.286(2) Å	<i>Z</i> = 2
<i>b</i> = 6.594(3)	<i>F</i> (000) = 416
<i>c</i> = 11.177(3)	<i>V</i> = 753.5(4) Å ³
β = 96.27(3) ^o	<i>D_m</i> = 1.778(2) Mg m ⁻³
λ (Mo <i>K</i> α) = 0.71069 Å	<i>D_x</i> = 1.777
μ = 0.367 mm ⁻¹	

表3

Chemical formula	2,2'-O-cyclo-5S(CH ₃) ₂ -oxo ⁶ C	2,2'-O-cyclo-5Cl-oxo ⁶ C
FW	C ₁₁ H ₁₆ N ₃ O ₅ S ⁺ Cl ⁻	C ₁₃ H ₁₄ ClN ₃ O ₇
Crystal system	orthorhombic	tetragonal
<i>a</i> (Å)	11.156(3)	20.125(10)
<i>b</i> (Å)	17.403(10)	20.125(10)
<i>c</i> (Å)	7.355(8)	7.566(8)
Space group	<i>P2₁2₁2₁</i>	<i>I4₁</i>
<i>Z</i>	4	8
<i>D_m</i> (Mg m ⁻³)	1.512	1.550
<i>D_x</i> (Mg m ⁻³)	1.570	1.559
μ (Cu <i>K</i> α) (mm ⁻¹)	3.62	2.63
<i>F</i> (000)	704	1488
<i>V</i> (Å ³)	1427.96	3064.35

表4 2,5'-S-cyclo-s²U

C ₁₂ H ₁₄ N ₂ O ₄ S	<i>M_r</i> = 282.32
Orthorhombic	Space group <i>P2₁2₁2₁</i>
<i>a</i> = 7.694(1) Å	<i>Z</i> = 4
<i>b</i> = 9.470(3)	<i>F</i> (000) = 592
<i>c</i> = 17.628(7)	<i>V</i> = 1284.3(7) Å ³
λ (Mo <i>K</i> α) = 0.71069 Å	<i>D_m</i> = 1.448(1) Mg m ⁻³
μ = 0.178 mm ⁻¹	<i>D_x</i> = 1.459

表5 2,2'-S-cyclo-s²U

C ₉ H ₁₀ N ₂ O ₄ S	<i>M_r</i> = 242.25
Monoclinic	Space group <i>P2₁</i>
<i>a</i> = 8.881(1) Å	<i>Z</i> = 2
<i>b</i> = 6.841(2)	<i>F</i> (000) = 252
<i>c</i> = 8.454(1)	<i>V</i> = 494.1(2) Å ³
β = 105.84(1) ^o	<i>D_m</i> = 1.627(1) Mg m ⁻³
λ (Mo <i>K</i> α) = 0.71069 Å	<i>D_x</i> = 1.628
μ (Mo <i>K</i> α) = 0.327 mm ⁻¹	

表 6 6,5'-cyclo-hU

$C_{12}H_{14}N_2O_5$	FW 268.27
Monoclinic	Space group C2
$a = 11.220(2)\text{\AA}$	$Z = 4$
$b = 6.393(1)$	$F(000) = 568$
$c = 18.963(3)$	$V = 1293.8(4)\text{\AA}^3$
$\beta = 107.98(1)$	$D_m = 1.372(3)\text{Mg m}^{-3}$
$\lambda(\text{Cu } K\alpha) = 1.54173\text{\AA}$	$D_x = 1.377$
$\mu(\text{Cu } K\alpha) = 0.921\text{ mm}^{-1}$	

強度データーはすべて理学製自動四軸型回折計

を用いて測定した。

解析は、6,2'-O-cyclo-Cについては、最小値
函数法、6,5'-cyclo-hUについては、ベクトル
求像法、2,2'-S-cyclo-s²Uについては、プログ
ラムMULTAN¹⁰⁾を使った直接法で、その他に
については、重原子法で行なった。

構造の精密化は、完全マトリックス最小二乗法もしくはブロック近似最小二乗法によって行なった。
最終のR値 ($R = \frac{\sum ||F_O - F_C||}{\sum |F_O|}$) はすべて7%以下である。

[2] 結果と考察

X線解析の結果明らかになったそれぞれのピリミジンシクロスクレオシド誘導体の分子構造を図1
- 4に示す。

図1 6,2'-O-cyclo-C

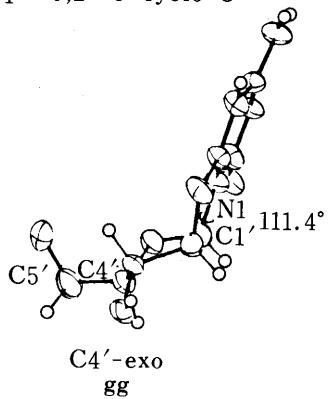


図2 2,2'-S-cyclo-s²U

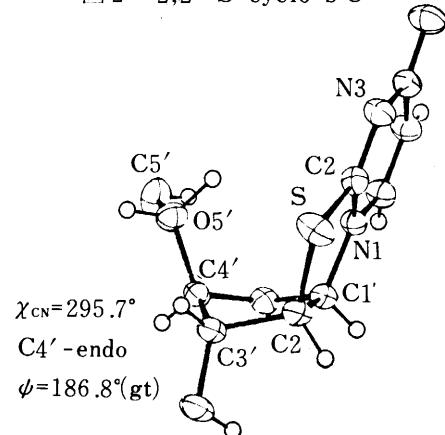


図3

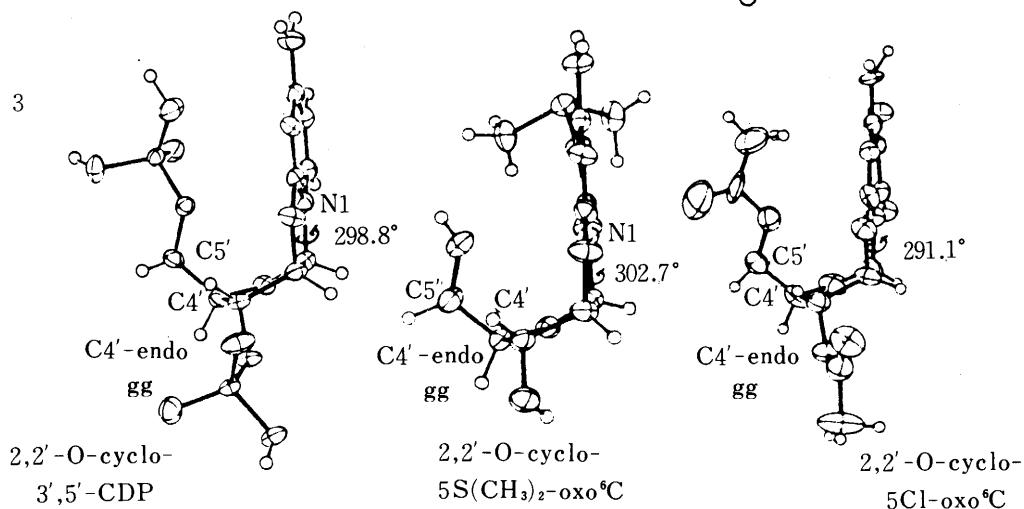
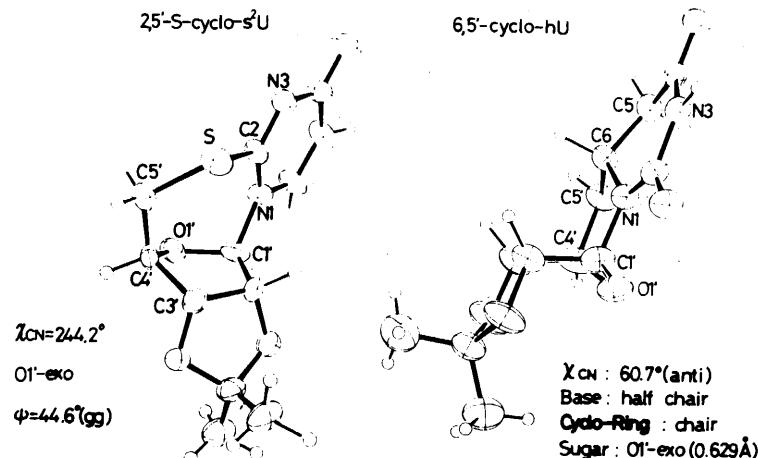
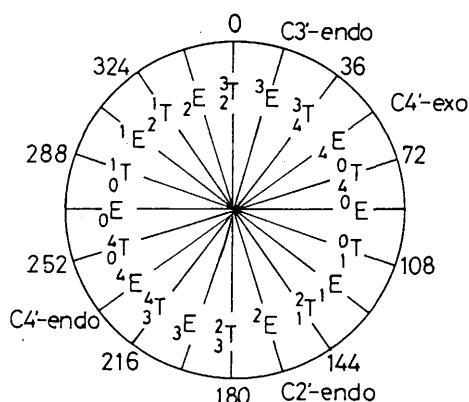


図 4

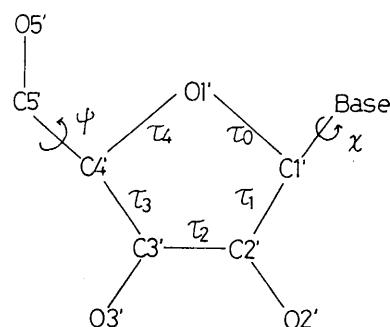


Pseudorotational Circle



$$\tan P = \frac{(\tau_4 + \tau_1) - (\tau_3 + \tau_0)}{2\tau_2(\sin 36 + \sin 72)}$$

P; the Phase Angle of Pseudorotation



スクレオシドのコンホメーションを規定するねじれ角¹¹⁾は図 5 に示す。

1) グリコシド結合まわりのコンホメーション

今までに解析されているピリミジン塩基をもつシクロスクレオシド誘導体の χ_{CN} の分布は、図 6 に示したとおりである。6,2'-O-cyclo-C とすべての 2,2'-シクロスクレオシドの χ_{CN} はシクロ体でない通常のピリミジンスクレオシド ($\chi_{CN} = 0^\circ \sim 60^\circ$ もしくは $210^\circ \sim 250^\circ$) でみられない χ_{CN} の領域にあり、シクロ体特有の値になっている。

これまで解析された 2,2'-シクロ体のグリコシド結合まわりの χ_{CN} のばらつきは約 13° であり、各 χ_{CN} の値と糖部のねじれ角 τ_i の間に相関のあることが明らかになり、その相関係数は 0.88 と大きい（図 7）。これはシクロ化により新たに形成されたほぼ平面をなす 5 員環のわずかなパッカリングのちがいを反映しているものと思われる。

2) 糖のコンホメーション

2'-シクロスクレオシドの糖のコンホメーションは

図6 χ_{CN} values (°) for Pyrimidine Cyclonucleosides

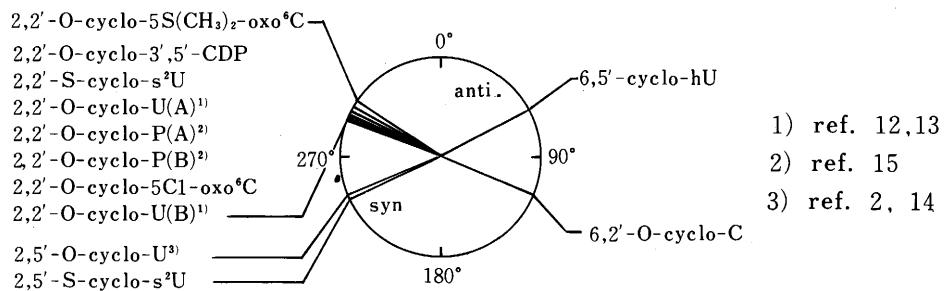


図7

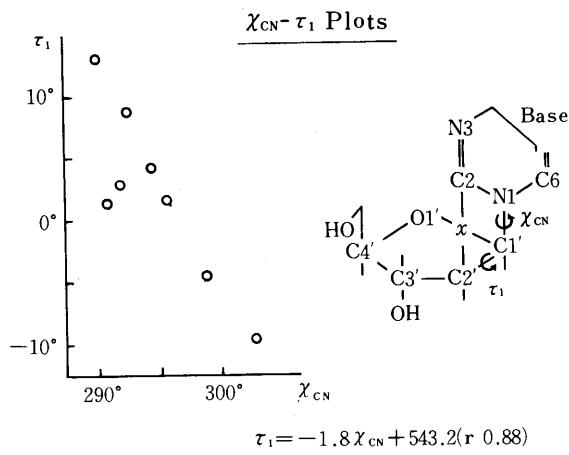


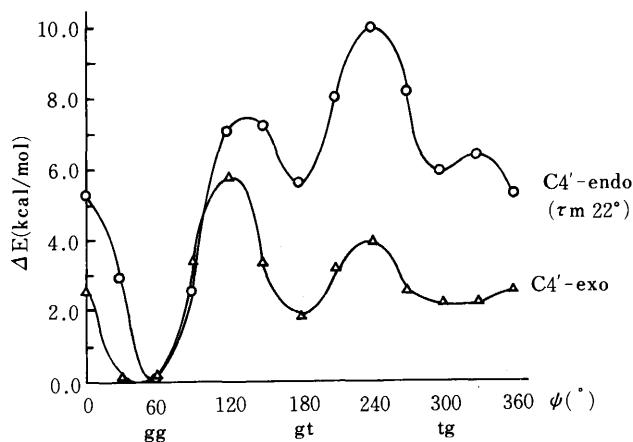
表7に示すように糖のパッカリングとC4'-C5'結合まわりのコンホメーションがそれぞれ(1)C4'-exo, gg or gt (2)C4'-endo, gt or tg (3)C4'-endo, gg(分子内short Contact)の3つに分類できることが明らかになり、立体的に無理のないようコンホメーションをもっていることがわかる。

C4'-exoとC4'-endoの場合について、C4'-C5'結合まわりのねじれ角(ψ)とエネルギーとの相関について、INDO法による計算結果を図8に示したが(1)と(3)についてはX線解析結果をうまく説明できた。

表7 Torsion Angles(°) Describing the Conformation of the Sugar Moieties in 2'-Cyclonucleosides

	τ_0	τ_1	τ_2	τ_3	τ_4	τ_m	P	ψ
6,2'-O-cyclo-C	-31.4	6.2	19.7	-38.9	44.3	45	64(C4'-exo)	gg
2,2'-O-cyclo-P(A)	-31.2	8.9	14.6	-33.5	41.0	40	69(C4'-exo)	gt
2,2'-S-cyclo-s^2U	19.2	1.7	-20.4	31.8	-32.6	34	233(C4'-endo)	gt
2,2'-O-cyclo-U(A)	14.4	4.2	-19.7	28.3	-27.3	29	227(C4'-endo)	gt
2,2'-O-cyclo-U(B)	9.3	12.9	-28.9	34.5	-27.7	34	214(C4'-endo)	gt
2,2'-O-cyclo-P(B)	14.3	2.9	-17.7	26.4	-25.6	28	230(C4'-endo)	tg
2,2'-O-cyclo-3',5'-CDP	16.9	-4.5	-8.5	18.1	-22.2	22	247(C4'-endo)	gg
2,2'-O-cyclo-5S(CH_3)_2-oxo^6C	19.5	-9.5	-3.1	14.2	-21.4	22	262(C4'-endo)	gg
2,2'-O-cyclo-5Cl-oxo^6C	10.0	1.3	-11.1	17.3	-17.7	18	232(C4'-endo)	gg

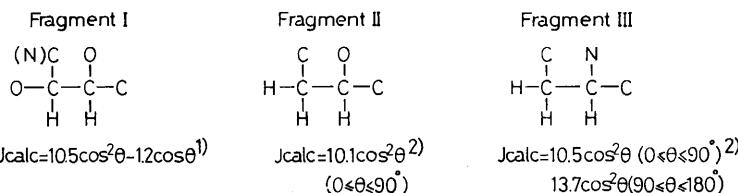
図8 A Plot of the Variation in Total Energy



[2] 結果と考察

分子構造がもっとも Rigid と考えられる 6,5'-cyclo-hU について考察すると表8に示したように J_{calc} と J_{obs} は $\text{H}_2'\text{H}_3'$ をのぞいて相互に比較的よく対応している。従って結晶中の分子構造が溶液中でも保持されていること、およびそれぞれのフラグメントに関して修正 Karplus 式^{1,16)} の適用がほぼ妥当であることが示唆された。しかし $\text{H}_2'\text{H}_3'$ に関しては使用した修正 Karplus 式が妥当ではないことが示された。

$\theta_{\text{HH}}(^\circ)$	Fragment I			Fragment II			Fragment III		
	$\text{H}_1'\text{H}_2'$	$\text{H}_2'\text{H}_3'$	$\text{H}_3'\text{H}_4'$	$\text{H}_4'\text{H}_5'$	$\text{H}_4'\text{H}_5'$	$\text{H}_5'\text{H}_6$	$\text{H}_5'\text{H}_6$	$\text{H}_6\text{H}_5\text{a}$	$\text{H}_6\text{H}_5\text{b}$
	J_{calc}^*	0.0	9.3	0.0	2.8	2.4	7.0	11.2	5.2
$J_{\text{obs}}(\text{Hz})$	0.0	6.0	0.0	2.8	2.8	7.9	8.5	4.1	13.2



次に糖のパッカリングとして $\text{C}4'\text{-endo}$ と $\text{C}4'\text{-exo}$ コンホーメーションをとることが X 線解析より明らかになった 2'-シクロヌクレオシドのカップリング定数を表9にまとめて示した。従来、ヌクレオシドについてよく使用されている修正 Karplus 式¹⁾ を用いて、それぞれのコンホーメーションの場合のカップリング定数 J の予想値を計算した結果を表10に示してあるがこの値と表9の実測値を比較すると J_{obs} に関する実測値が $\text{C}4'\text{-endo}$, $\text{C}4'\text{-exo}$ のどちらの予想値とも対応しないことがわかる。

以上のように修正 Karplus 式が適用できることがわかった 6,5'-cyclo-hU の $\text{H}_2'\text{H}_3'$ および 2'-シク

5'-シクロヌクレオシドの糖のコンホーメーションは $\text{O}1'\text{-exo}$ 型であることがわかった。

第2章 NMRによるピリミジンシクロヌクレオシドの研究

[1] 実験

(1)-(8)の化合物について $\text{H}'\text{-NMR}$ を測定した。化学シフトとカップリング定数はコンピューターシミュレーションによって解析した。

表9 Coupling Constants(Hz) of 2'-Cyclonucleosides

—	J _{1'2'}	J _{2'3'}	J _{3'4'}	J _{4'5'}	J _{4'5'}
6,2'-O-cyclo-C	5.7	0.8	2.2	4.2	6.9
2,2'-O-cyclo-3',5'-CDP	5.7	0.0	1.5	3.7	3.7
2,2'-O-cyclo-5'-CMP	5.7	0.0	1.3	3.8	3.8
2,2'-O-cyclo-5S(CH ₃) ₂ -oxo ⁶ C	5.9	0.0	-	3.6	3.6
2,2'-O-cyclo-5C1-oxo ⁶ C	5.9	0.0	1.5	3.2	4.8
2,2'-S-cyclo-s ² U	6.3	2.0	3.6	4.0	6.5
α -2,2'-O-cyclo-U [*]	5.4 (5.4)	9.2	2.3	4.6	
α -2,2'-O-cyclo-C [*]	5.5 (5.4)	9.2	2.3	4.7	

*) ref. 17

表10 ³	J _{1'2'}	J _{2'3'}	J _{3'4'}
C4'-endo	8.9	0.2	0.0
C4'-exo	9.1	6.1	10.2

ロヌクレオシドのH1'H2'について Finite Perturbation Theory(FPT) INDO法¹⁸⁾を用いてJ値の計算を試みた。FPT-INDO法ではカップリング定数J値は次式で与えられる。

Calculation of Coupling Constants

Finite Perturbation Theory(FPT) INDO Method

$$J_{AB} = (\hbar/2\pi)r_A r_B K_{AB}$$

$$K_{AB} = (8\pi\beta/3)^2 s_A^2(O) s_B^2(O) [\rho s_A s_A(h_B)/h_B]$$

r : the gyromagnetic ratio for nucleus

s²(O) : the density at the nucleus of the valence s orbital

$\rho s_A s_A(h_B)/h_B$: the electron spin density at the nucleus of atom A when a magnetic perturbation h_B is present at the nucleus of atom B

計算結果は表11に示す。通常のアラビノ体が2'-シクロ体と同じコンホメーションをとる¹⁹⁾とき、すなわちpseudorotationの位相角Pが似た値をとる場合を比較してみると2'-シクロ体のJ_{1'2'}値は、約3Hz小さくなっている; 修正Karplus式の予想値より実測値が約3Hz小さかったこととよく対応している。6,5'-cyclo-hUのJ_{2'3'}値についても同様である。この原因としては、図9-10に示したようにX線解析で明らかになったシクロ環部のC1', C2'まわり、あるいはC2', C3'まわりの結合角のひずみによるものと思われる。

表11 J_{HH} (Hz) Calculated by the FPT-INDO Method

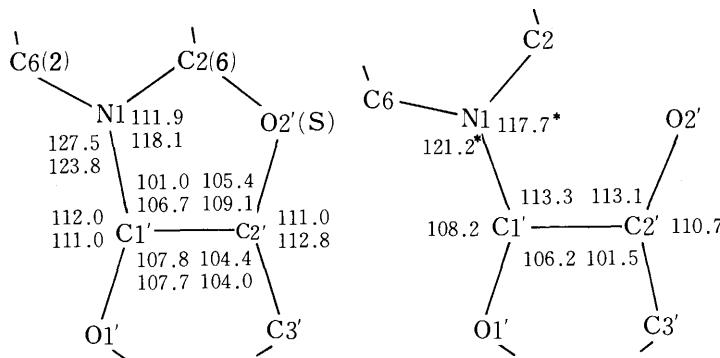
$H1'-C1'-C2'-H2'$	$P(^{\circ})$	$\theta_{HH}(^{\circ})$	J_{HH} (Hz)
6,2'-O-cyclo-C	64	8	5.3
2,2'-O-cyclo-5C1-oxo ⁶ C	233	4	4.2
2,2'-O-cyclo-3',5'-CDP	247	-2	5.2
2,2'-O-cyclo-5S(CH ₃) ₂ -oxo ⁶ C	266	-7	5.7
2,2'-S-cyclo-s ² U	233	3	6.3
Arabinonucleoside*	54	-2	9.2
Arabinonucleoside*	234	0	7.3

$H2'-C2'-C3'-H3'$	$P(^{\circ})$	$\theta_{HH}(^{\circ})$	J_{HH} (Hz)
6,5'-cyclo-hU	269	4	6.0

** FPT-CNDO Method

* A, Jaworski, I, Ekiel & D, Shugar (1978)

図9 Bond Angles($^{\circ}$) at C2' and C1'

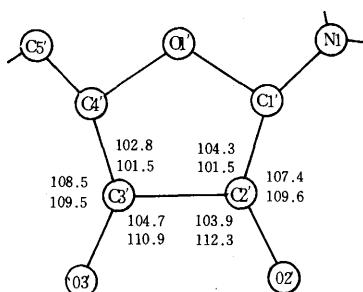


上段: O-cyclo deriv.
下段: 2,2'-S-cyclo-s²U

Arabinose deriv.

* ref. 20

図10 Bond Angles($^{\circ}$) at C2' and C3'



上段: 6,5'-cyclo-hU, 2,5'-S-cyclo-s²U
下段: Ribose*

* ref. 21

そこで結合角のひずみが果たして J 値にどのような影響を与えるのかを明らかにするために vicinal のカップリング定数をもっとも簡単な系であるエタンについて検討してみた。その結果、図11に示したように O-シクロ体のように結合角に大きなひずみをもつていると二面角(θ_{HH})が 0° 付近で特に J_{HH} 値が小さくなることがわかった。

以上のことを考慮して 2'-シクロ体の溶液中での分子構造を推定すると糖のパッカリングは、すべての化合物について、C4'-endo が優位であることがわかった。

図11

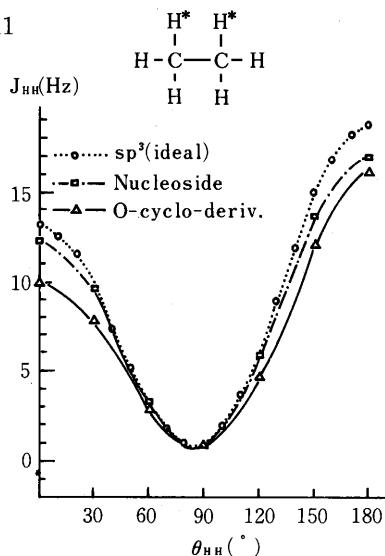
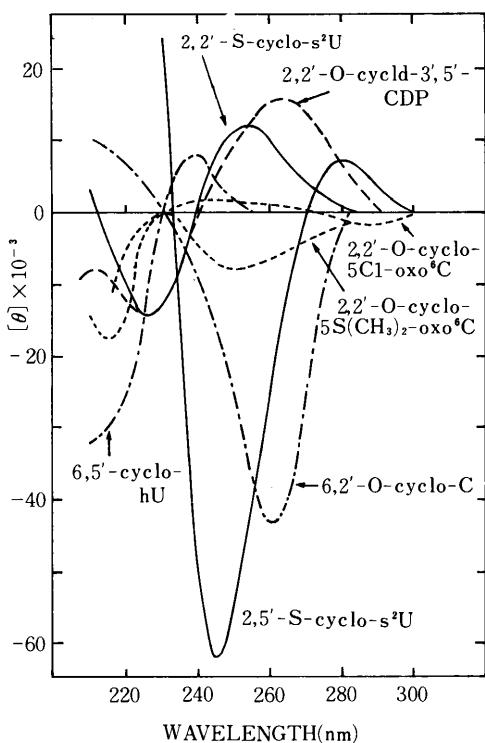


図12



第3章 CDによるピリミジンシクロヌクレオシドの研究

[1] 実験

(1)-(10)の化合物についてCDおよびUVスペクトルを測定した。図12にX線解析を行なったもののCDスペクトルを示す。図13にはリン酸部のそれぞれ異なる2,2'-O-cyclo-cytidylic acid誘導体と220 nm以上にはUVの吸収極大をもたない6,5'-cyclo-hUとhUのCDスペクトルを示す。

[2] 結果と考察

図12で明らかなように、シクロ体は塩基部のちがいグリコシド結合まわりのコンホメーションのちがいにより様々なCDパターンを示す。これらについてKirkwood Coupled Oscillator Theory²²⁾にもとづいて $\pi \rightarrow \pi^*$ 遷移によるCotton効果の大きさ(旋光強度)を理論的に計算した。旋光強度(Ka)は次式で与えられる。

Calcuation of Rotational Strength

Kirkwood Coupled Oscillator Theory

$$R_a = \sum_{b \neq a} \frac{2\pi}{hc} \frac{\nu_a \nu_b \mu_a^2 \mu_b^2}{(\nu_a^2 - \nu_b^2)} GF$$

$$GF = [\vec{e}_a \cdot \vec{e}_b - 3 \frac{(\vec{e}_a \cdot \vec{R}_{ab})(\vec{e}_b \cdot \vec{R}_{ab})}{\vec{R}_{ab}^2}] \frac{\vec{e}_a \times \vec{e}_b \cdot \vec{R}_{ab}}{\vec{R}_{ab}^3}$$

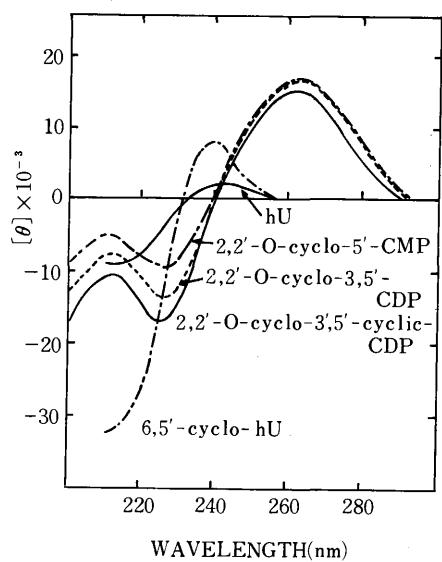
μ : the magnitude of the transition moment
 ν : the frequency of the transition moment
 \vec{e} : the unit vector in the μ direction

a: chromophore (base) group
b: vicinal (sugar) group

塩基部の遷移モーメントの方向はX線解析によって明らかになった座標をもちいて π 電子近似であるPPP法²³⁾によつてもとめた。糖部の遷移モーメントに関するパラメーター

についてはEyring²⁴⁾らの使用した値、また塩基部の遷移モーメントの振動数(ν)および大きさ(μ)は実測値を用いた。図12の各種2,2'-シクロヌクレオチドのCDスペクトルには230 nm以下の領域には、リン酸部や糖のコンホメーションの影響と思われるCotton効果が現われていることと、hU誘導体では $n \rightarrow \pi^*$ 遷移²⁵⁾によると思われるCotton効果が240 nm以下に現われていることなどから260 nm領域のCotton効果についてのみ $\pi \rightarrow \pi^*$ 遷移による旋光強度の計算を行ない、結果を表12に示す。

図13



2,2'-O-cyclo-3',5'-CDP, 2,2'-S-cyclo- s^2 Uについては旋光強度(Ra)はよく一致を示しているが, 6,2'-O-cyclo-Cと2,5'-S-cyclo- s^2 Uの260 nm領域の大きなCotton効果には $\pi \rightarrow \pi^*$ 遷移以外の遷移によるCotton効果が含まれているものと思われ, 符号については一致しているが旋光強度の実測値と計算値との差は大きい。

結論

1. 種々のピリミジン塩基をもつシクロヌクレオシド誘導体のX線解析を行ない, 2,2'-シクロ体および6,2'-シクロ体については通常のヌクレオシドには見られないグリコシド結合まわりのねじれ角(χ_c)をとり, そのばらつきと糖のねじれ角(τ_1)の間に相関

表12 Comparison of the Calculated and Observed CD Spectra

		$\lambda_{\text{max}}(\text{nm})$	$\mu(\text{eA})$	$\text{Ra} \times 10^{40}(\text{cgs})$
2,2'-O-cyclo-3',5'-CDP	obs	263	0.65	14.9
	calc	273	0.30	20.6
2,2'-S-cyclo- s^2 U	obs	262	0.61	9.4
	calc	273	0.34	9.1
2,2'-O-cyclo-5S(CH ₃) ₂ -oxo ⁶ C	obs	254	0.71	-5.5*
	calc	268	0.62	-2.1
6,2'-O-cyclo-C	obs	262	0.63	-6.9*
	calc	265	0.60	-1.2
2,5'-S-cyclo- s^2 U	obs	258	0.47	-2.6*
	calc	267	0.34	-0.8

*Ra value resolved by Gaussian curves

のあることが明らかになった。糖のコンホーメーションは, 2'-シクロヌクレオシドの場合, (1)3つのコンホーメーションに分類できること, (2)糖のパッカリングとC4'-C5'結合まわりの安定なコンホーメーションとの間に相関性のあること, および(3)この相関性については分子軌道法によるエネルギー計算からも支持されることがわかった。5'-シクロヌクレオシドの場合, 糖のパッカリングはO1'-exo型である。

2. 種々のピリミジンミクロヌクレオシドのH'-NMRを測定し, 従来ヌクレオシドの解析に使用されていた修正Karplus式がシクロ体の一部に適用できないのは, X線解析で明らかになった結合角のひずみによるものであることをカップリング定数の量子化学的計算により明らかにした。

3. 種々のピリミジンシクロヌクレオシドのCDを測定し $\pi \rightarrow \pi^*$ 遷移による旋光強度について、X線解析の結果、判明した原子座標を用いて理論的計算を行ない2,2'-シクロ体については実測値とよい一致を示すことを明らかにした。

引用文献

- 1) C. Altona & M. Sundaralingam, *J. Amer. Chem. Soc.*, **95**, 233(1973).
- 2) P. C. Manor, W. Saenger, D. B. Davies, K. Jankowski & A. Rabenzenko, *Biochim. Biophys. Acta*, **340**, 472(1974).
- 3) K. Tanaka, S. Fujii, T. Fujiwara & K. Tomita, *Acta Cryst.*, **B35**, 929(1979).
- 4) G. T. Rogers & T. L. V. Ulbricht, *Biochem. Biophys. Res. Commun.*, **39**, 414(1970).
- 5) M. Ikehara, M. Kaneko, Y. Nakahara, S. Yamada & S. Uesugi, *Chem. Pharm. Bull.*, **19**, 1381(1971).
- 6) T. Ueda & S. Shibuya, *Chem. Pharm. Bull.*, **22**, 930(1974).
- 7) T. Kanai, M. Ichino, A. Hoshi, F. Kanzawa & K. Kuretani, *J. Med. Chem.*, **15**, 1218(1973).
- 8) T. Kanai, O. Murayama, *J. Carbohydr. Nucleosides Nucleotides*, **3**, 25(1976).
- 9) T. Kanai, M. Ichino, A. Hoshi & K. Kuretani, *Tetrahedron Lett.*, 1965(1971).
- 10) G. Germain, P. Main & M. M. Woolfson, *Acta Cryst.*, **A27**, 368(1971).
- 11) C. Altona & M. Sundaralingam, *J. Amer. Chem. Soc.*, **94**, 8205(1972).
- 12) L. T. J. Delbaere & M. N. G. James, *Acta Cryst.*, **B29**, 2905(1973).
- 13) D. Suck & W. Saenger, *Acta Cryst.*, **B29**, 1323(1973).
- 14) L. T. J. Delbaere & M. N. G. James, *Acta Cryst.*, **B30**, 1241(1974).
- 15) W. L. B. Hutcheon & M. N. G. James, *Acta Cryst.*, **B33**, 2228(1977).
- 16) R. L. Abraham & K. M. McLauchlan, *Mol. Phys.*, **5**, 513(1962).
- 17) C. H. Lee & R. H. Sarma, *J. Amer. Chem. Soc.*, **98**, 3541(1976).
- 18) J. A. Pople, J. W. Wilkerson, Jr. & N. S. Ostlund, *J. Chem. Phys.*, **49**, 2965(1968).
- 19) A. Jaworski, I. Ekiel & D. Shugar, *J. Amer. Chem. Soc.*, **100**, 4357(1978).
- 20) D. Voet & A. Rich, *Prog. Nucleic Acid Res. Mol. Biol.*, **10**, 183(1970).
- 21) W. Saenger & F. Eckstein, *J. Amer. Chem. Soc.*, **92**, 4712(1970).
- 22) J. G. Kirkwood, *J. Chem. Phys.*, **5**, 479(1937).
- 23) N. Ohbo, H. Kashiwagi, T. Kunii, T. Ohta & F. Hirota, P. P. P. DOUBLE CI, Library of Programs, Computing Center of Tokyo Univ. (1970).
- 24) W. H. Inskeep, D. W. Miles & H. Eyring, *J. Amer. Chem. Soc.*, **92**, 3866(1970).
- 25) J. Cadet, L. S. Kan & S. Y. Wang, *J. Amer. Chem. Soc.*, **100**, 6715(1978).

論文の審査結果の要旨

ヌクレオシドの構造化学的研究は核酸の分子構造と活性との関連性を追究する上で、もっとも基礎的かつ重要な分野を占める。山縣ゆり子君はピリミジン塩基をもち、グリコシド結合まわりのねじれ角を固定したシクロヌクレオシド誘導体7種の分子構造をX線構造解析法で決定するとともに、溶液中の分子構造と比較するためNMRおよびCDによる測定ならびに分子軌道法による理論計算を行い、NMRのカップリング定数ならびに260nm附近のCDコットン効果についてきわめて有用な新知見を得た。これらの業績は、構造化学とくに核酸の物理化学分野に寄与するところ大で、薬学博士の学位論文として十分価値あるものと認める。